

主 題：聖霊と私1

聖書箇所：ローマ人への手紙 8章5－13節

前回、私たちはパウロが教える二種類の人間について学んで来ました。パウロが言うように、「肉に従って歩む人」と「御霊に従って歩む人」と、この二種類の人が存在するのです。つまり、この世の中には人類の歴史を通して、救われている人と悲しいけれども救われていない人々の二種類が存在すると、彼は言うのです。まだ、このすばらしい救いを受けていない人、救われていない人々の特徴は、自らの主人である肉に対して、その罪に対して従い続けている者たちである。また、逆に救われている人たちは、主人である神に従い続けている者たちであると言います。

パウロは前回、私たちに救われている人の特徴を特に二つ示してくれました。一つはイエスを信じている人たち、そのように自称しているのではなく、神によって救われた者たちは主にに対して従順に歩み続けている者たちであると言いました。同時に、彼らは聖さを求め続けて行く者たちである、それが彼ら信仰者の目標となっていると言います。罪から離れてもっと神に喜ばれる者になって行きたいと願うのです。前回、私たちが4節で見たように、「**律法の要求が全うされるためなのです**」と、その様な願いをもつということです。神が要求されていることを行なって行きたい、つまり、神が私たちに望んでいることは、私たちが神の前に益々聖くなって行くこと、神が喜んでくださる者へと変えられて行くこと、その様に願い、そのように生きて行こうとする人たち、それが聖書が教える救われている者たちであると言いました。ですから、私たちは「救い」に関してこのように言うことが出来ます。「救いは喜んで主に従う者たちを生み出すものです。」と。ですから、たとえ、私が勝手に救われていると言っても、問題は神が私を救ってくださったかどうかです。たとえ、私が天国に行けると思ったとしても、問題は神が私たちを天国に招いてくださるかどうかです。なぜなら、救いは神が与えてくださるものであり、神が私たちを生まれ変わらせてくださるものであり、喜んで神に従う者を生み出すものだからです。

信仰者である皆さん、主を心から礼拝しておられる皆さん、あなたが益々そのように主にに対して従順に従い続けて行くために、パウロは大切なことをこの後も私たちに教え続けてくれます。あなたが神の前に正しく歩み続けて行くために、そのことを今日も皆さんは願ってこうして集まって来られたことと確信していますが、あなたが正しい歩みをして行くために必要なこと、それはあなたは自分の責任をしっかり覚えなければいけないし、同時に、神の助けが不可欠だということを忘れてはいけないのです。必ずこの二つがあるのです。あなたには責任があります。どのように生きて行くのかはあなたに責任があります。同時に、神の助けがなければ神が喜んでくださるような生き方を為すことは出来ません。「私たちの責任」と「神の働き」、この二つが信仰生活において私たちが忘れてはならないことなのです。

今日のレッスンを見て行く前に、前回私たちが見たように、この4節のみことばに「**律法の要求が全うされる**」とありました。「**全うされる**」ということばはすでに見ました。この動詞はいろいろな箇所で見られていますが、今、一つの箇所を見ましょう。Ⅱコリント10：6です。「**また、あなたがたの従順が完全になるとき、あらゆる不従順を罰する用意ができています。**」、ここに「**全うされる**」ということばが「**完全になるとき**」と訳されています。これらはどちらも受動態、受け身です。ということは、神がこのような働きをあなたのうちに為してくださるということを教えるのです。あなたがそのような者に変えられて行くのは神の働きなのです。ところが、それだけではありません。6節には「**あなたがたの従順が**」と書かれています。つまり、あなたがたが従順に歩んで行くという選択、その責任は私たち人間にあるということです。私たちがどのような選択をするか、どのように生きて行くのかは私たちの責任なのです。

ガラテヤ人への手紙の中に「**…人は種を蒔けば、その刈り取りもすることになります。**」（ガラテヤ6：7）とあります。つまり、私たちが為す選択の結果は自分に返って来ると言うのです。ですから、私たちは正しい賢い選択をする責任があります。同時に、神の助けが常に必要であることも教えています。ですから、完全にされて行くのは神のわざであり、そのために私たちは従順に歩み続けて行くという大きな責任があるのです。私たち信仰者としての歩みにおいて、私たちの責任と神のみわざと、私たちはこの二つのことを忘れてはならないのです。もっと具体的に言うなら、私たちはこのように生きて行くのです。信仰者は神のおことばである聖書を学んで行きます。なぜ、学ぶのでしょうか？聖書を通して私たちは神のみこころを知るためです。自分のしたいことがみこころになってほしいと私たちはそのように願って、これまでと同じように、自分のしたいことを選択し続けて行くかもしれませんが、その生き方は間違っています。その生き方には祝福はありません。私たちはいつもみことばによって自分の考えや選

扱を照らし合わせて行くのです。みことばに反していないかどうかです。

正直に言って、年数の長いクリスチャンたちの中にそのような問題があります。自分の考えが固まってしまっていて主に対して従順でないのです。私たちが成長して行くために必要なことは、いつも神の前に砕かれた謙遜な謙虚な心です。「主よ、どうぞ教えてください」という態度です。「大丈夫です、神さま、教えていただかなくても私は知っています」という態度が問題なのです。ですから、私たちは神のみことばを学んで行くことによって「神さま、どうぞあなたのみことばを通して私にみこころを教えてください。あなたが何を望んでいらっしゃるのか教えてください。」と、その様な態度をもって私たちはみことばを学ぶのです。それによって神が私に何を望んでおられるのかを見つけて行くのです。そして、そのみこころを知ったあなたは決心しなければいけないのです。「主よ、私はそのように生きて行きたい。それがあなたのみこころ、望んでおられることだからそのように生きて行きます。」と、その様な決心をするのです。

しかし、そこで間違ってしまうのは「一生懸命頑張ってください」と言って自分の力に頼むことです。そうすると私たちは落ち込んでしまって失望することになってしまいます。私たちはどんなに強く決心をしても、その決心は不完全だからです。ですから、「神さま、私はこのように生きて行きたい。あなたのみこころに従って行きたい。主よ、どうぞ助けてください。あなたの助けが私には必要なのです。このように歩み続けて行くためにはあなたの力が必要なのです。」とそのように私たちは歩んで行くのです。

今日、私たちが見て行くこのローマ人への手紙8章5節から、パウロはまた前回と同様に、二種類の人についての話を続けます。「救われている人」と「救われていない人」、二種類の人を比較をします。神に背を向けて逆らい続けて行くことがいかに愚かであるか、また、恐ろしいことかを、パウロは私たちに教えてくれます。

☆二種類の間について

A. 彼らの生き方 5節

1. 救われていない人

最初に彼は「救われていない者たち」についてこのように言います。「**肉に従う者は肉的なことをもっぱら考えますが、**」、これが救われていない人たちの生き方であるというのです。すでに私たちが見て来たように、「肉的なもの」とは神抜きのこと、神が憎まれることです。そのようなことを「**もっぱら考える**」と言うのです。「**もっぱら考える**」とは、そこに心を向けて心を掛けて一生懸命努力し続けて行くということです。その人たちは肉的なことを考えてそこに心を向けてその様に生き続けて行くと、その様な姿をこのみことばは教えています。

思い出しませんか？主なる神が人類を洪水によって滅ぼしました。なぜ、滅ぼされたのでしょうか？創世記6：5に「**主は、地上に人の悪が増大し、その心に計ることがみな、いつも悪いことだけに傾くのをご覧になった。**」とあります。人間の心が神の方に向くのではない、神のことを考え、神に喜ばれることを選択しようとするのではなく、自分のやりたいことをやって行く、自分の好きなことをやって行く、神ではなく自分を喜ばせることを選択して行く、その様に人間の心が間違った方向に罪の方向にだけ傾いていると言うのです。その結果、主はノアの家族を除いた人類を滅ぼされたのです。つまり、彼らの生き方は「**悪いことだけに傾いた**」、悪いことを心で計り、計画しながら生きています。

2. 救われている人

この5節は続けて私たちに「救われている人たち」の生き方について教えています。「**御霊に従う者は御霊に属することをひたすら考えます。**」、二つは対比されています。ここで二つの生き方をパウロは対比しているのです。この「**ひたすら考える**」というのは、先ほどの「**もっぱら考える**」と同じです。先ほどは、自分の心を肉に向けてそのように生き続けようとしていた人たち、今度は、自分の心を聖霊なる神に向けて、そこに心を掛けて心を置いて、そのように生きて行こうとする人たちです。向いている方向が違います。関心が違うのです。ガラテヤ5：16でパウロが言ったように「**私は言います。御霊によって歩みなさい。そうすれば、決して肉の欲望を満足させるようなことはありません。**」、「**御霊によって歩みなさい。**」、パウロは私たちが考えること、私たちの想像すること、私たちの口にすること、そのすべてが神に喜ばれるようにと言うのです。主なる神に私たちの心をいつも支配し続けていただくのです。

信仰者の皆さん、もうあなたが十分にご存じのように、主なる神に喜ばれる日々を過ごし続けて行くためには、私たちは日々主の助けをいただき続けて行くことが必要です。神の助けなしに神に喜ばれる生き方なんてできません。パウロは重々そのことを承知しています。信仰者として、少しでも神に喜ばれる生き方をして行きたい、私の感謝を私の愛をもっと現わす生き方をして行きたい、そのためには、そのように望むだけでなく、その様な歩みを実現させてくださる神の助けが常に必要だと分かっていたのです。

パウロはこのように二種類の人々の生き方を教えてくれたのですが、どうですか？信仰者の皆さん、あなた自身、真理を知ってその真理に従う生き方をしておられますか？真理を知ろうとしていますか？真理を知って行くためには、私たちはその真理である神のみことばを正しく解釈することが必要です。自分勝手な解釈は危険です。でも、驚くべきことは、余りにも多くのクリスチャンが自分勝手にみことばを解釈しているのです。みことばを文脈に関係なく取り出して聖書がこう言っていると、そのように言われたことはありませんか？私たちはそのような自分勝手な解釈を捨てなければいけないのです。真理に従って行くために私たちはこの真理に従って行こうという決心が必要なのです。そして、繰り返しますが、それを実現させてくださる神の助けをいつも仰ぎながら歩んで行くことが必要です。あなたはそうにして今日生きているかどうかです。

詩篇の著者がこのように言います。40：18「**わが神。私はみこころを行なうことを喜びとします。**」、私たちもこのように言いたいではありませんか！私の願い通りに生きて来た人生は私に本当の喜びをもたらさなかった。私たちはみな好きなように生きて来たはずですが、でも、その人生が私たちに喜びをもたらしたのでしょうか？違うのです。主に従うこと以外に神の祝福をいただく方法はないのです。この著者はそのことをよく知っていて「**わが神。私はみこころを行なうことを喜びとします。**」と言うのです。そして、みことばはこのように続いています。「**あなたのおしえは私の心のうちにあります。**」と、これがカギです。私たちはどうして神のみこころに従って行くことを喜びとすることが出来るのでしょうか？その人は神のおことばをしっかりと学び、神の真理を自分の内に蓄えているから、その真理に従って生きて行こうとする、そのときに、神はその人を祝してくれるのです。だから、その人の心は喜びにあふれるのです。時代がどうあれ、信仰者としてどの様に生きて行くのか？この真理は変わっていません。旧約の人々がそうであったように、新約の人々も同じです。主に従順に従って行く以外に主の祝福を今得ることはできないし、そして、私たちが主にお会いした時に、私たちはその祝福をいただくことができないのです。

信仰者の皆さん、神が託して下さった人生を正しく生きていますか？無駄のない人生を生きていますか？みこころに従って生きていますか？もう間もなく、私たちの人生は終わろうとしています。あっという間に一年が過ぎました。あっという間に私たちはこの年まで生きて来ました。あなたは今のまま生きて行きますか？それとも、反省するべきところをしっかりと反省して、神の前に喜ばれる歩みをもって自分のこの地上での人生を全うしようとするのか？私たちがどのように選択をするのか？どのように生きて行くのか？そのことは私たち一人ひとりがしっかりと考えなければいけないことです。

彼らの生き方を教えただけではありません。パウロは6節から彼らに対する約束をこのように教えます。

B. 彼らへの約束 6節

「**肉の思いは死であり、御霊による思いは、いのちと平安です。**」、またここにもイエスを信じていない人たちと信じている人たちのことが比較されています。彼らに与えられている約束を比較しています。

1. 「救われていない人」への約束

1) 霊的な死

救われていない人々にはどのようなことが約束されているのでしょうか？「**肉の思いは死であり、**」と、肉の思いを持ち続けると結果的に死んでしまうと言っているのではありません。肉の思いを持っている人々、その人たちはすでに死んでいると言うのです。どういう意味でしょうか？確かに、肉体的には生きています。でも、霊的には死んでいるのです。あなたも私も例外なくこの地上のすべての人々、イエスを除いて、みな霊的に死んだ者として生まれて来ました。神と繋がっていないのです。あなたを造りたいのちの源である真の神があなた自身と繋がっていないのです。いのちだけではありません。祝福の源である神と繋がっていないゆえに、その神だけが与えることのできる特別な祝福をいただくことができないのです。あなたは肉体的には確かに生きています、心臓は動いています。しかし、あなたと創造主なる真の神とは繋がっていないのです。そのことを「**霊的に死んでいる**」と言います。あなたはそんな状態で生まれて来たのです。

2) 永遠の死

また同時に、そのような人々には永遠の死が約束されています。自分が犯したすべての罪のさばきを永遠に亘って苦しみの中で受け続けるのです。ガラテヤ5：19－21には「**肉の行ないは明白であって、次のようなものです。不品行、汚れ、好色、：20 偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、憤り、党派心、分裂、分派、：21 ねたみ、酩酊、遊興、そういった類のものです。前にもあらかじめ言ったように、私は今もあなたがたにあらかじめ言うておきます。こんなことをしている者たちが神の国を相続することはありません。**」とあります。さて、皆さんに質問です。「**このようなことをしている者たちが、**」とありますが、この「**している者たち**」という動詞の時制は何でしょう？もしも、ここに記されている肉の行ないを一回でも犯したらあなたは滅

びますと言われたら、私たちはみなそこに属します。例えば、もし神が、信じていると言っているあなたがこのようなことを一回でも犯したら、あなたは救いを失いますと言われるとしたら、これは真理から外れていますが、もしそうなら、私たちはみな救いを失いませんか？この「**している**」というこの動詞の時制は現在形です。つまり、私たちが繰り返し見ているように、その様なことを習慣的に継続的に行ない続ける、それがこの人たちの特徴なのです。この人たちを現わしているのです。救われていないからです。「**こんなことをしている者たちが神の国を相続することはありません。**」、こんな生き方をしている人が天国に行くことは絶対がない、それが神の約束です。

ですから、「**肉の思いは死であり、**」と、肉を愛し肉に従い続けている者たち、肉が自分の主人である者たち、そのような人たちには死が約束されているのです。この地上にいても神の特別な祝福をいただくことがない、そして、肉体的な死を迎えた時にその後には自分の犯した罪に対する永遠のさばきです。

2. 「救われている人」への約束

救われている人の約束は「**御霊による思いは、いのちと平安です。**」。

1) 霊的ないのち

先ほどは「死」と言いました。今度は「**いのち**」です。霊的に死んでいた者に霊的ないのちが与えられたのです。いのちの源であり祝福の源である神と繋がったのです。だから、神の特別な祝福を得ることが可能となったのです。

2) 永遠のいのち

また、私たちは永遠の死に向かっていました。しかし、私たちはそこから救い出されて永遠のいのちをいただいたのです。自分の犯したすべての罪が赦されたゆえに、私たちは永遠をこの主とともに過ごすのです。

3) 平安

もう一つ書かれています。パウロは救われた者に与えられている約束は「平安」であると書いています。神の平安をいただきながら、信仰者、本当のクリスチャンは生きて行くことができるということです。これは皆さんよくご存じのように、問題や悲しみのない人生のことを言っているのではありません。そのようなことは私たちの生活につき物です。しかし、神の約束は私たちは神の平安をいただいて生きて行くことができると言うのです。覚えていますか？イエスが弟子たちにこのように言われました。ヨハネ14：27「**わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。わたしがあなたがたに与えるのは、世が与えるのとは違います。あなたがたは心を騒がしてはなりません。恐れてはなりません。**」と。私たち信仰者に神が約束してくださったこの平安は、世の中が与えることのできる平安とは違うと言うのです。自分は非常に安全な環境に置かれている、満足できる環境に置かれている、だから、私の心は喜び、私の心は平安であり、私の心は満ち足りていると言っても、環境に基づくものなどいつでも変わるのです。それが証拠に、皆さんもある時は喜んである時は不安に陥ったのです。でも、神の約束は環境とは関係なく、また、環境を超越したものであり、イエスがこの人生を過ごされた時に常に示されたその平安を私たちはいただくことができるのです。

私もたくさん悲しみの中にいる人々と時間を過ごして来ました。そのような方々のいろいろな証を聞いて来ました。愛する者を天に送った淋しさや孤独感。また、その召され方もいろいろです。病気で召される人もいたし、事故で召される人もいました。いろいろな形で愛する者を天に送った人たち、また、仕事を失ってしまったり、いろいろな問題が起こったりと、その中で「なぜ、神さまこのようなことが続くのでしょうか？」と、そのようなことを一度なりとも思ったことのある人は私だけでなく、皆さんも多々経験されていることと思います。しかし、その様な中にいる方々がこんな証をしてくれることも事実です。それは「この悲しみ中であっても主は私にすばらしい平安を与えてくださった。」という証です。それを聞く度に自分自身に恥ずかしさを覚えます。神に愚痴を言った自分のその不信仰さに恥じ入ります。私よりも悲しみの中にいる人たちを神はこんなに慰めてこんなに励ましてくださった、主が「平安を与える」と約束されたように、その平安を与えてくださったのです。

この間、ある人から電話をいただいて、その方もいろいろな苦しみ問題の中でぼつんと口にされたことですが、「神さまって、いらっしゃるのでしょうか？」と、そのようなことを考えたことはありませんか？頭では分かっています、聖書を通して分かっています。「神さま、あなたはいらっしゃるのでしょうか？」とその質問をいただいたときに、その人が言わんとしていることは私自身よく理解できました。二人で話をしたのはこういうことです。悲しみの中にいる人たちがそのことを教えてくれているのではない、悲しみの中にいる人たちがその中で本当に喜びを持って涙を流しながら、ご自身が持っているその平安を話されるときに、それは教会でそのように答えなければいけないと言われているから答えている

のでは決してないことは明らかです。その痛み苦しみの中で、悲しみの中で、彼らは「主は約束通り、私に平安をくださった。それが私たちの神が生きている真実の証ではないですか。」と証されるのです。主の約束は信じる者に「いのちと平安」を与えるのです。

信仰者の皆さん、これはあなたに約束されたもの、あなたに与えられたものです。私たちはこのような歩みを為して行くことができるのです。もし、あなたの心が騒いでいるなら、見なければいけないところははっきりしています。勇気をもって湖の上を歩いたペテロも波を見て風を見て恐ろしくなりました。周りの状況によってあなたの心は希望を失っていませんか？ 恐れていませんか？ 見なければいけないのは、そのすべてを支配しておられる主です。主なる神を見上げることです。その時に主はこんな約束を私たちのうちに為してくださるのです。平安を与えてくださると。私たちは何という祝福をいただいているのでしょうか？ かつての私たちは死しかなかった、永遠の死、霊的な死です。ところが、私たちはいのちが与えられ、しかも、この地上においては確かに問題や悲しみがない生活ではありませんが、神の平安によって私たちは歩み続けて行くことができると言うのです。

C. さばかれる理由 6－8節

6節から8節を見ると「さばかれることの理由」についてパウロが教えています。なぜ、このように主に逆らい続ける者たちがさばかれるのか、その理由を教えているのです。

1. 神の敵だから

7節「**というのは、肉の思いは神に対して反抗するものだからです。**」、なぜ、このように肉に従い肉を愛し、そして、肉の奴隷として生きている人たち、主イエス・キリストを信じていない者たちがさばかれるのか？ その理由は「なぜなら、彼らは神の敵だから」と言うのです。もし、この中にまだ神に心を閉ざしておられる方がいるなら、あなたは覚えなければいけません。あなたは今、神の敵なのです。この全能なる創造主なる真の神に敵対する者であると。この7節に「**肉の思いは神に対して反抗する**」とあります。この「**反抗**」という名詞は「敵意」という意味を持っています。神に対して敵意を抱いている、ですから、ローマ5：10のみことばを思い出しませんか？ 「**もし敵であった私たちが、…**」と書かれています。イエス・キリストを信じて罪赦される前の私たちは、神に対して敵であったと言うのです。聖書を見て行くと、サタンのことを何度も神の敵と称しています。そして、生まれながらの人間はみな例外なく、そのサタンの奴隷としてサタンに従う者として生まれて来たのです。ゆえに、生まれて来たすべての者は「サタンの子」と呼ぶことができます。なぜなら、主人はサタンだからです。ですから、サタンが喜ぶ罪に罪を重ねて来たのです。神の敵であるサタンに喜んで従うサタンの子どもたち、私たちは生まれながらにみな神の敵です。同時に、私たちは神よりもこの世を愛する者でした。今、神の敵であると見ましたが、それについての証拠をここに二つ見ることができます。

神である証拠

1. 神への愛がない 6節

生まれながらのすべて人が神の敵であることの証拠、6節に「**肉の思いは死であり**」とありますが、この「**思い**」という名詞、これは「考える、意図する」という意味です。つまり、自分の心がいったい何に対して開かれているのか？ いったい何に関心を持っているのか？ 何を求めて生きているのか？ 彼らの関心は神ではなくこの世なのです。ですから、ヤコブ書4：4でヤコブが警告するように「**貞操のない人たち。世を愛することは神に敵することであることがわからないのですか。世の友になりたいと思ったら、その人は自分を神の敵としているのです。**」、神ではなくて世を愛することはまさに神に対する敵対行為であると言うのです。生まれながらの人間は皆そうです。神の敵であるサタンを信じてそれに従っているだけでなく、私たちの創造主なる神以外のものを愛してそれに従っていると言うのです。私たちはまさにサタンの子、神の敵であり、その様な生き方によって神に敵対する者であることを明らかにしているのです。だから、祝福を得ないのです。心が神に向かっていないし、神に開かれていないのです。心の関心は神ではなくこの世のこと自分のことなのです。

エレミヤはこのように警告を与えました。エレミヤ17：5－6「**主はこう仰せられる。「人間に信頼し、肉を自分の腕とし、心が主から離れる者はのろわれよ。」**」、心が神に開いていない人、その心が神と繋がっていない人、心が神を求めていない人、そういう人々は「**のろわれよ**」と言います。「**：6 そのような者は荒地のむろの木のように、しあわせが訪れても会うことはなく、荒野の溶岩地帯、住む者のない塩地に住む。**」と、その人たちはいかに祝福を得ることがないか、そのことを警告しています。敵である証拠はその生き方です。彼らの生き方は神を愛していないのです。神以外のものを愛しているのです。まさに、それが敵である人の生き方なのです。

2. 神に従わない 7節

二つ目は「神に従わない」ということです。神を喜んで心から愛することもしないし、神に従って行

かない人だと言うのです。これが敵であることの証拠だと言います。敵だから神を愛さないし、敵だから神に従わないと言うのです。7節の後半に「それは神の律法に服従しません。いや、服従できないのです。」とあります。従って行こうという意志もないし、「服従できない」、従って行くその力もないと言います。神の敵はこのように神に従おうとしないのです。神に反する者たちです。

この間のクリスマスの時に、アメリカのある町で大きなビルボード、街頭の広告にいろいろなサインが出ました。この団体は六つのサインを購入して、そこに自分たちのメッセージを記したのです。それは「神はいない」というメッセージでした。その代表がこのように言うのです。これはある無神論の団体ですが、「聖書の神が真実であると証明できない。証明できないのであれば信じるべきではない。神は存在しないのだ。多くの人々は神はいないということを知ることによって喜んでいたり、あなたを地獄へ送ろうとあなたを見張っている、そのような存在はいないのだ。」と。インタビューした人はこう聞くのです。「もし、私があるあなたに『あなたのために祈ります』と言ったら、あなたは不快に感じますか?」、その人はこのように答えました。「あなたは時間を無駄にしている。私のために祈りたければどうぞ。しかし、あなたの祈りに答える神は存在しない。」と。この人たちはこうして自分たちのメッセージを人目につく所に掲げて、「神はいないのだ」とそのようなメッセージを一生懸命発しようとしています。悲しいけれども、これはアメリカだけの問題ではありません。私たちの国でも、その通りだと言うことができると思います。

神に逆らう人々、悲しいことですが、私たちのこの社会はそのような人々であふれています。神の敵である人々の特徴、それは神への愛がない、そして、その人たちは神に従って行こうとしないのです。だから、このような生き方は神を喜ばせることができないと言うのです。8節を見てください。「肉にある者は神を喜ばせることができません。」と、このような生き方をしている者たちが神の前に喜ばれることは決してないと言うのです。

心が問題

今、私たちがこのように見て来たこと、ここでパウロが私たちに教えていること、それはすべての問題は私たちの「心」です。心に問題があると言うのです。ですから、パウロはこの5節から繰り返して「私たちの思いである」という表現によって「問題はあなたの心です。なぜなら、心が悪いと必ず悪い行ないが生まれて来るから。」と言うのです。なぜ、神を愛さないのでしょうか?心に問題があるからです。なぜ、神に逆らい続けるのでしょうか?心に問題があるからです。詩篇14:1に「愚か者は心の中で、「神はいない。」と言っている。彼らは腐っており、忌まわしい事を行なっている。善を行なう者はいない。」とあります。彼らは心の中で言うのです。先程の無神論の人のように「神はいない。」と。そして、「彼らは腐っており、忌まわしい事を行なっている。善を行なう者はいない。」のです。エレミヤもこのように言いました。17:9-10「人の心は何よりも陰険で、それは直らない。だれが、それを知ることができよう。:10 わたし、主が心を探り、思いを調べ、それぞれその生き方により、行ないの結ぶ実によって報いる。」。ソロモンは箴言6:14で「そのねじれた心は、いつも悪を計り、争いをまき散らす。」と言っています。

つまり、今、ローマ8:7-8を見ましたが、神の敵である人間は服従しないだけでなく、その意志がないだけでなく、服従することができないのです。生まれながらの人間は神に従って行くことができないのです。確かに、心に問題があるのです。でも、その心を自分の努力によって変えることができるのでしょうか?できないのです。その力がないのです。生まれながらの人間は神を喜ばせることができないのです。この罪に満ちた心を私たちは自分で変えることができないのです。

でも、感謝なことに心は変えられるのです。その心を神が私たちに代わって変えてくださるのです。だから、パウロが私たちに繰り返して救いに関して教えて来たのです。救われるとは「生まれ変わること」でした。神は私たちに新しい心を与えてくださるのです。私たちができないことを神がしてくださった、私たちは新しく生まれ変わることができるのです。使徒15:8-9でこのように教えています。

「そして、人の心の中を知っておられる神は、私たちに与えられたと同じように異邦人にも聖霊を与えて、彼らのためにあかしをし、:9 私たちと彼らとに何の差別もつけず、彼らの心を信仰によってきよめてくださったのです。」、神によって、聖霊なる神によって、心がきよめられると言うのです。ですから、確かに、私たちの心に問題があります。心が罪に汚染されているゆえに、私たちの行動が罪に汚染されたものになっています。私たちに出来ないことを神がしてくださるのです。

最後に、エゼキエルが教えるみことばを聞いてください。エゼキエル書18:31「あなたがたの犯したすべてのそむきの罪をあなたがたの中から放り出せ。こうして、新しい心と新しい霊を得よ。イスラエルの家よ。なぜ、あなたがたは死のうとするのか。」。皆さん、救いがあるのです。32節「わたしは、だれが死ぬのも喜ばないからだ。——神である主の御告げ。——だから、悔い改めて、生きよ。」、イエスを信じておられないあなたに神のすばらしいメッセージがあります。あなたがどんなに努力しても変えることのできない心

を神が変えてくださるのです。ですから、あなたは神に逆らい続けて来たこれまでの生き方、その罪を悔い改めて、主が備えてくださった救いをいただいて主に従って行く選択をすることです。

救われている皆さん、私たちはそのような者から神の恵みによって救い出されたのです。それが私たちの神を称える理由です。それが私たちの主を心から礼拝する理由です。主がこんな私を救ってくださった、罪に染まった心を新しくしてくださった、そして、肉に従って来た者が、肉の奴隷だった者が、そこから解放されて主に従う者へと生まれ変わったのです。どうぞ、信仰者としてこの恵みを覚えながら、この恵みを感謝しながら、歩み続けてください。そして、このすばらしい救いにあずかる者たちが起こされるように、祈り、あかし続けて行きましょう。この恵みは私たちだけに与えられたものではありません。主を信じるすべての人たちに与えられると約束されているものです。そのような人々が起こされるように、自らを主に委ねて、そして主に用いていただきましょう。